うしく里山の会 広報誌
さとやま
（No.５７　２００７年１１月号）

NPO法人 うしく里山の会
事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
（牛久自然観察の森内）
TEL 029-874-6600　FAX 029-874-6812
E mail u_satoyama@infoseek.jp
HP http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/

より、深く里山を知る
里山自然観察隊プロジェクト

〈高野　美栄子〉

＜里山自然観察隊の活動の様子＞
足下に目をやれば、そこは宝箱
宝箱の中身は場所によって様々です

九月二十四日実験植物園で、絶滅危惧種の見直しについてのセミナーがあり聴講にいきました。

危惧種のランクアップや保全の取り組みでランク下げになったものもある。牛久の植物も何種類かは含まれておりランク下げはノジトラノオ、アップはバアソブ、ツルカコソウなどである。

里山自然観察隊はそれらを目的に活動しているわけではないが、しばしば牛久のレッドデータの植物に出会える事がある。そのような時は渡辺さんが丁寧に解説して下さり、関心が高まってくるのを期待している。

今年の活動は観察地を絞り、一般向けの里山植物ガイド、会員の為の観察に分け目的を明らかにした。ガイドは将来会員が参加者の案内が出来るように、会員向けは小野川上流域に定め、林と水田に分け、一定の範囲の中で植物を見分けながらどのような植物がどのくらい生息しているかを、多い【４】～もっとも少ないを【１】の数字で表した。水田であれ林であれ同じように見えても管理次第でその生態はまったく違ってくる。人の生活の中で環境はどの様にでも変わってしまう事を改めて実感してくる。

気づき～関心へ、そして何よりも自然への愛情と、地道な活動を継続してこそより深く里山を見つめる事が出来るのかも知れません。

プロジェクト活動報告

うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

巨木リサーチ事業報告

増田　勝彦（街路樹Ｇ－責任者）

市内街路樹調査と「広報うしく」への資料提供

アキニレ、モミジバフウ、トチノキ、トウカエデ、ハナミズキ、ユリノキ、ナンキンハゼ…。さて？「知ってる、見た事あるよ！」という木は、何本ありましたか。普段は、考える事がイッパイあって、なかなか木の名前まで、気がまわりませんね。上記は、「巨木リサーチ事業―街路樹グループ」が今夏調査した市内の街路樹ですが、それぞれ１００本以上植えられています。うしくカッパ祭りが行われる「花水木通り」のハナミズキは、植栽時には２５６本あったものが１４本枯れてしまい、今は２３２本残っています。又、駅東口前の県道「けやき通り」のケヤキはその樹形に、市を代表する並木道になるのではないかと期待されていた方も多かったようですが、上部が切られ、かつての面影はありません。枯れたり、人為的に切られたりとさまざまですが、枯葉の始末、電線、隣接境界地等の問題もあり、今の時代、樹木もスクスクと伸びていくのは並大抵ではないようです。樹木はフィトンチッドを発散して、私たちの生理機能を活性化してくれますし、季節の花や紅葉が四季を通して、心にやすらぎを与えてくれます。八月の街路樹調査中も、木陰を日よけとして歩き、緑の有難さを身に沁みて感じました。又、ＥＣＯ面でも、ＣＯ２を吸収・貯蔵する樹木の果たす役割は大きく、牛久でも樹木保全の必要性は年々高まっています。保全には、予算が大きなウェイトを占めますが、先ず市内の児童からお年よりまで、樹木に深い関心と係わりを持ってもらう事が、保全の第一歩だと思います。

活動開始の経過

巨木リサーチ事業と市は、毎月第三火曜日に担当者連絡会を開いています。市民の「樹木への関心を高める」方策として、六月の連絡会で次の３つの提案をしましたが、Ａ、Ｂ案に賛意が得られました。Ｃ案は今後の検討課題となっています。

Ａ案ー市情報紙「広報うしく」に街の木の紹介欄を設ける。

Ｂ案ー街路樹に樹木ラベル（樹木名板）を取り付ける。

Ｃ案ー巨木、古木、稀少木の所有者に、市の認定証を発行する。Ａ、Ｂ案を実現するため、七月から九月を活動期間と定めて参加者を募った所、暑中にもかかわらずメンバー２８名中１４名が参加、七月十二日に巨木-街路樹グループ（以下Ｇ）の活動が

＜街路樹Gの打合せ＞

スタートしました。
概要は、次の通りです。
〈街路樹G内の役割分担：敬称略〉
○広報うしく（対象樹木の写真撮影と解説文作成）
・撮影チーム―井上・臼井・戸塚・高木・増田・渡辺
・原稿チーム―假屋・簡・羽賀
○樹木ラベル
・アキニレチーム：樹種・本数の確認、幹周り計測調査―飯田・井上・臼井・假屋・簡・佐藤・高木・田澤・戸塚・羽賀・平塚・増田・村尾・渡辺
・クスノキチーム：ラベルデザイン、取付け方法、予算（案）作成―飯田・假屋・簡・田澤・平塚・増田・村尾・渡辺
○資料
・ユリノキチーム：調査地図と提出資料の作成―簡・佐藤・平塚・前田・増田・渡辺

〈街路樹ハクモクレンの調査〉

活動の結果

A―市情報紙「広報うしく」の九月一日号に「わが街の木」として、ユリノキの写真と解説が掲載されました。月シリーズで毎号1日版に掲載されます。

B―樹木ラベルの調査は、対象街路樹約5,800本の樹種の特定と本数確認・幹周測定を実施、ラベルの形状、デザイン、予算（案）をまとめた資料を連絡会で担当課へ提出しました。残るは、予算措置が課題です。

七月に街路樹Gを編成、炎天下の八月初旬に調査スタート、終了の九月十一日までの活動は12回を数えました。「広報うしく」担当の皆さんは、引き続き市への資料提供が残っています。

来春には牛久駅前の東西を初めとする地域に、名札をぶらさげた樹木がお目見えするかもしれません。お楽しみに！

＜調査の合間にホット一息＞

＜樹木ラベルの一例＞

今月の古木・希少木

No.7
イロハモミジ
イロハカエデ
タカオモミジ
タカオカエデ

日本のカエデ属は26種、本県でも15種以上あります。そのうちイロハモミジは福島県・福井県～九州、県内では北部や山地に分布します。牛久では社寺の境内や旧家の屋敷などに古木がありますが、自生木か否かは分りません。今年度の社寺境内の調査木は5本に達します。美しい紅葉を愛でるため古くから観賞木に供され、園芸品種が多数作られてきました。紅葉の鑑賞の他、絵画や歌の対象にされてきた身近な樹木だったため、いろいろな名前がついています。モミジは赤や黄の色を揉みいずるという語源に、カエデは蛙手（カエルテ）に、イロハモミジは葉の裂片を端から「いろは…」と数える子供の遊びに、それぞれ由来します。さらにタカオカエデは京都のカエデの名所である高雄に因みます。モミジに紅葉の字をあてたのは平安時代からで、それまでは黄葉と書かれたそうです。紅葉狩りの起源は分りませんが、万葉人の時代からあったとの説もあります。

（渡辺　泰）

牛久自然観察の森　斉藤　孝

「平成１９年度上半期利用まとめ」

指定管理者二年目の上半期（四月～九月）が終了しましたので、施設利用に関してご報告いたします。まずは入園者数、四月：４６５５名、五月：５７９８名、六月：４３３８名、七月：４０２７名、八月：５３２３名、九月：４１９４名　上半期合計：２８３３５名。ちなみに昨年度上半期の入園者数は２６５８３名で、昨年度を１７５２名上回っています。

続いて主催行事は実施：８２回、２２１５名参加。学校・団体ガイド実施は：５６回、２９５２名参加。ボランティア活動は８４活動、５５７名参加。セルフ利用の団体は１２８団体、２２５４名利用となりました。

最も来園者数の多かった日ベスト3は、第一位が五月五日こどもの日：７７８名、第二位がスズムシプレゼントを実施した九月九日：７４２名、第三位が五月三日：５５０名となりました。

いよいよ芸術の秋、十一月三日から十七日までは「牛久バードカービング同好会作品展」も開催されます。皆さんどうぞご来場下さい！

＜本物より本物らしい？！＞

雑木林応援隊活動報告　雨宮　廣之

ムジナの行方

前回に応援隊の活動内容を報告致しましたが、通称ムジナの里に関して、詳報したいと思います。

名前の由来に関しては、前回説明しましたので、省きますが、観察の森と異なり、ムジナは大きな問題を抱えています。昭和四十年代から利用されなくなった雑木林。それが本当の姿です。今日もムジナで蔓取りをして来たのですが、ムジナに有る木は、ほとんど萌芽更新をしています。つまり以前は、雑木が利用されていた事の証明です。

ムジナに手を入れる前は、踏み入る事も出来ない状態でした。手を入れてからしばらくして、近隣の方からの連絡があり、奇麗になり、作業が出来るようになったので、昔の様に、木を切っても良いか…との事でした。勿論、地主さんですので、自由に利用して下さい、と答えましたが、キノコのホダギに利用する…と聞いて、とても嬉しかった事を覚えています。

萌芽更新をしている事は、有る程度大きくなった木を切り、ホダギや炭材として利用していた事を示しています。ところが、化学肥料の普及、燃料としての価値の低下、等により、雑木林も利用しなくなり、ついには人も入れない様な林になってしまいました。

有る程度下草を刈り、定期的に管理をして行くと、今まで日に当たらず育つことが出来なかった色々な植物が芽を出します。ここまでは良いのですが、奇麗になった雑木林の利用法は何でしょうか？　手を入れたい荒廃林は、沢山有ります。

牛久にある全ての雑木林を奇麗にしたいのですが、奇麗にして…それからどうするかが分かりません。ホダギに利用するとしても、めったに有るとは思えませんし、炭材としても利用仕切れるかが分かりません。

今考えて入るのは、有る程度整備（散策路等ですが）出来たら、地主さんの許可を得て、一般公開したいと思っています。

色々な人に知ってもらい、次のステップを皆で考える機会になれば…と思っています。

ひとつ言えるのは、雑木林に入ると、とても気持ちが良いのです。是非、皆さんにこの気持ち良さを味わってほしいと思っています。

取りあえず、やって見て、その先は、きっと後で分かるでしょう。

これからの季節の雑木林は紅葉がとても奇麗です。

里山自然隊活動報告

平塚　芳雄

今年度５回の実施を予定している「植物観察会」の第４回目を十月十三日（土）に実施しました。今回の調査は第２回目と同じ地域で同じテーマ（湿地植物の観察）での調査です。

当日は晴れ時々曇りの天候で風もなく絶好の観察日和でした。当日の参加者は初めて「植物観察会」に参加する３名の方を含め総勢１２名。観察場所は小野川上流域の２ヵ所（東大和田地区４ポイントと猪子地区２ポイント）の水田です。

午前９時前には稲刈りの済んだ水田に立ち入り、渡辺泰さんの指導の下、水田に生えている野草の観察を開始しました。各水田とも稲刈りが済み、切り株の後には２番穂の葉が青々し、実が付いているものもありました。東大和田地区の水田ではポイント４ヵ所で調査しましたが、水田は水が抜かれ、完全に干上がっている状態で一部の田圃では雑草対策の一環としての耕起もなされていました。一見すると調査箇所４ヵ所とも同じような環境条件にある水田と思われましたが、詳しく観察して見ると植物の発生状況（種類・量）には差があり、管理の仕方や農薬の使用等に違いがある事が推測されます。土地改良がなされ区画整理された水田は以前の水田とは異なり、殆どの水田が乾田化されている為、生えている植物は湿地の植物（アゼナ、アメリカアゼナ・キクモ・コナギ等）だけではなく、畑地に生育する植物（タネツケバナ・トキンソウ等）も同じように確認され計４０数種の野草を記録しました。又、調査ポイント２から３への移動の際、途中の道端で牛久では見られなくなったといわれる「ウシクグ」も確認することができました。

午後は猪子地区の水田２ヵ所のポイントで調査しましたが、牛久での確認情報が少ない「ミズマツバ」や牛久の絶滅危惧種に指定されている「マルバノサワトウガラシ」と「サワトウガラシ」を確認することができました。

尚、次回の活動は「植物ガイド」の第４回目を十一月十日（土）に予定しております。市内城中地区の里山で「里山の草木の果実を見る」をテーマに草木の観察をします。一般市民の方、会員の皆様の参加をお待ちしています。

＊集合場所と時刻
・得月院前の駐車場　午前９時
・連絡先　０２９―８７３―６５６２

（高野）

＜見分けるコツも丁寧にお教えします＞

さとやまがっきゅう告知

若林　和浩

アケビがうまい！

十月十三日（土）に第４０回さとやまがっきゅう「実りの秋がやって来る。五感で感じて！」が開催されました。今回は活発に活動している蜂達を考え、竜ヶ崎市蛇沼公園からスタートです。公園に入っただけで、雑木林から大量のプレゼント。赤や黄色に色づき始めた奇麗な落ち葉や、まんまるに熟れたドングリが出迎えてくれます。今年はクヌギのドングリもたくさん。どんぐりが大好きなカケスたちも、今年は大忙しの秋になるでしょう。

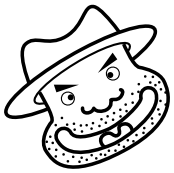
実りの秋は生き物達だけではなく、僕たちにもたくさんの楽しみを用意してくれます。この季節は、なんと言っても、アケビでしょう！まだまだ自然の多いこの周辺では、アケビの蔓が、あっちの枝につかまり、こっちの枝につかまり、縦横無尽に蔓を張り巡らせています。その蔓を追って行くと…ありました！見事に色づき開いたアケビがそこかしこに実っています。ちょっとお一つ拝借。うっすら透き通った実を口に含むと、ほんのりと優しい甘さが広がります。お菓子には無い自然な甘さがとても気持ちよく、心を和ませてくれます。蛇沼公園の周辺を散策中には、みんなで順番に木の実、草の実を探してどのぐらいの数をあつめられるか「木の実リレー」をしてみました。およそ１キロメートル程のあいだに、なん

と約２０種類の木の実、草の実を見つける事ができました。まさに実りの秋です。その中でも、またまた秋の味覚を収穫。「ムカゴ」です。ムカゴは山芋の蔓につく実。これが地面に落ちるとそこから山芋が育ちます。これも、古くからご飯と一緒に炊く「ムカゴご飯」が定番メニュー。実際に食べてみると、ほくほくとした食感と粒の大きさで、グリンピースご飯の様な感じで、なかなか美味しいです。

次回のさとやまがっきゅうは、十一月二十五日（日）に開催予定です。十一月の雑木林はなんといっても紅葉の美しさ。とびっきりのお粧しをした木々たちが僕らを迎えてくれますよ。

詳細はさとやまがっきゅうホームページでお知らせいたします。みなさまのご参加お待ちしております。

〈遠山地区の雑木林は観光地にも負けない美しさ〉
昨年の活動風景



和真っちのコラム

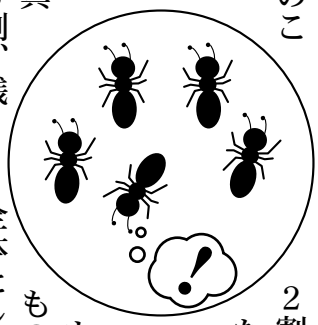
～自然界には「８対２の法則」があります～

（記　安村 和真）

「８対２の法則」ご存知の方も多いでしょうか。例えば、地面にはよくアリが歩いていますね。アリの群れのうち真面目にエサを探しているのは全体の８割、ただフラフラ歩いているだけのが２割くらいいるという法則です。同じようなことは私たち人間の世界でも言えます。子供たちは、学校で勉強をしますね。８割くらいの子供たちは普通に勉強するわけですが、２割くらいの子は勉強があまり好きではなくて、何か他のことに興味があるということがあります。また、大人になって会社などで働きますと、色々な人に出会う機会があります。ここでもやはり真面目に働く人は全体の８割、残り２割くらいは働きが今一つという感じの人がどうしてもいるものなのです。８割の人達と２割の人達を合せて、それで組織（全体）が成り立っているわけですね。このように、自然界の「８対２の法則」とは、生活の場のあちこちで見かけることができます。

この「８対２の法則」少し言葉を変えますと、「２割の重要なポイントを押さえて対策を打つと、８割は通る」というようにできます。学校の勉強やビジネス界、もちろん私たちのプロジェクト活動でも応用できる考え方ですね。全部ＯＫにしようと思うと時間がかかってしまい、かえって能率がよくありません。それよりも問題の２割の「核・ポイント」を押さえてそこに集中的に対策を打つことで、８割はＯＫになるという考えを持った方がいいということですね。

思い起こしてみれば、私がこの法則を知ったのは数年前のことでした。それより前の私は「全体のうち、重要な２割のポイントを押さえる」ことなど全く意識せずに漠然と勉強や仕事などしておりましたので、「立身出世」などとはあまり縁のない人生を生きてきました。ただ、一つだけ感じるものがあるのですが、「地球」を全体として考えたときに、２割のポイントになっている問題は何かな？と考えると、やはり「環境問題」かなと思います。次に「心」の問題でしょうか。現在私は、豊かな自然環境が健全な心身を育てる土壌になるのでは？と考えながら日々プロジェクト活動を続けております。目標は大きく明確に、実行は身近でできることから。「２割のポイントを押さえて、８割の結果を出す」を心がけて、これからの毎日を過ごしていきたいと考えています。



参加者からのお便り

このコーナーでは、活動に参加した一般参加の方から頂いた、感想を紹介したいと思います。今月そばプロジェクトの参加者から感想をいただきました。ありがとうございます。

そばプロジェクトに参加して

赤羽　宏之

私、将来のそば打ち名人を夢みている初々しい六十五才です。種まきからそば切りまでの全過程をじっくり勉強しようと参加させて頂いております。お世話になります。

八月二十五日の種まきに続き、十月十三日は第二回目のそば刈りが予定されていましたが、まだ実りが十分でなく残念ながら二十七日に延期となり、この日はその替りの仕事がありました。観察の森奥深くに分け入り竹竿を切り出してそばの干場作りをしました。そば作りにはこんな工程もあるのかと大変勉強になりました。そして色々な道具や材料が必要であること、又ここにはそれが完備されていることに感心しました。

里山の会はさすがに同好の志の集まり、なごやかな雰囲気にほっとします。きっと美味しいそばが出来るでしょう。今後のそば刈りからそば打ちまで、ほんとに楽しみです。

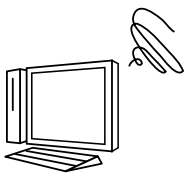
広報委員会よりお知らせ

広報委員会では、会報さとやまの印刷・発送のお手伝いをしていただける方を募集しております！
作業は封筒に宛名ラベルを張ったり、会報を入れたりなど、簡単な作業です。
毎月、わいわいガヤガヤ楽しくやってます！
次回の会報印刷日は十一月二十八日（水）午後一時からネイチャーセンターで行います。
事前に登録などは必要ありませんので、お手伝いいただける方は午後一時までにお越しください。
よろしくお願いいたします。

記事を書きたい！
編集をしてみたい！
取材をしてみたい！

なども随時募集中です！
興味のある方いらっしゃいましたら、ご連絡お待ちしています。

会員の皆様よりご要望があれば、印刷・発送準備終了後に、簡単なパソコン教室を開きます。
パソコン触るの怖い…。
説明書を読んでも分からない…。
ポスター作りにチャレンジしたい！
などなど、パソコンについて分からないことがあれば、ご質問ください。
もちろん会報もパソコンを使って作ってますよ！



１１月の里山カレンダー

※活動日は都合により変更になる場合がありますので，最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
				1 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	2	3 （文化の日） ○じゃがいも 9:00梅林畑
4 ○巨木古木ﾘｻｰﾁ(受 8:30市役所玄関 調査	5 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	6 （休園日）	7 ○雑木林畑隊 9:30畑	8 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	9 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	10 ○里山自然観察隊 9:00得月院Ｐ ○そばＰ 9:30観察舎 （会報等原稿〆切）
11 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	12 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	13	14 ○雑木林畑隊 9:30畑	15 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	16 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	17 ○そばＰ 時間未定NC
18 ○運営委員会9:00NC ○広報11:00NC ○ｴｺｱｯﾌﾟ作戦 13:00NC	19 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	20	21 ○雑木林畑隊 9:30畑	22 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	23 （勤労感謝の日） ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	24 ○巨木古木ﾘｻｰﾁ(受 ８：30市役所玄関 調査 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋
25 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋 ○さとやまがっきゅう 10:00森Ｐ	26 （休園日） ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	27 （休園日）	28 ○雑木林畑隊 9:30畑 ○会報発送 13:00NC	29 ○アヤメ園（受） 8:00アヤメ園Ｐ	30 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	

森：観察の森，　NC：観察の森ネイチャーセンター，　Ｐ：駐車場，　畑：観察の森駐車場奥の畑，

コジュケイ：観察の森内コジュケイの林，　観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑，ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里），

市：牛久市役所，　アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園，　（受）：受託事業，　（休園日）：観察の森休園日

編集後記

「心配事は尽きない…」

去年の秋は、冬鳥達がたくさん牛久や周辺の里山に渡ってきました。あまりの鳥達の多さに、餌が少ないのではないか？山で何かおきているのではないか？地球温暖化のせいではないかなか？などなど鳥好きの間で頭を悩ませたものです。では、今年はどうでしょうか？僕の家の周りでは、モズが毎日キー、ギチギチ、キョッキョッと高鳴きをするようになりました。観察の森で話を伺うと、去年に比べ、冬鳥たちは多少少ない様です。冬鳥のシーズンはまだまだこれからですが、飛んで来てくれないならくれないで、心配事はつきません。「便りのないのは良い便り」といいますが、鳥達にも住みやすい環境が残るといいですね。

これから冬の寒さに耐える為に、羽毛でまんまるになった鳥達を見るのが楽しみです。今年もベニマシコの可愛い姿がみれるかな？今年の冬はバードウォッチングにもぜひ参加してみてください。

会報さとやま　２００７年１１月号（発行・ＮＰＯ法人うしく里山の会）
事務局　300-1212茨城県牛久市結束町４８９－１　（牛久自然観察の森内）　電話０２９－８７４－６６００